



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



王の846号ホームランバットのエピソード

世界のホームラン王・王貞治にまつわるエピソードは、長嶋茂雄ほどではないが、ファンや著名人との心温まる話題は多い。昭和55年、あるパーティーで王選手と一緒にになった八代亜紀は「846号はいつ打つのですか」と尋ねた。846を自分の名前「やしろ」にかけて聞いたのである。それを覚えていた王は846号を打ったバットを八代亜紀にプレゼントしたのだ。そして、後日八代亜紀はお礼として王の肖像画を画いて贈ったという。

なお、王が公式戦最後のホームラン(通算868号)を打ったバットは徳光和夫が所有している。

遺憾

この言葉、本来は「残念」だという意味。しかし、いつの頃からか残念だという意味に、抗議や非難をするという意味が加わってきた。

具体的にいうと、「社員の過失に対し遺憾の意を表します」「遺憾ながら本日は欠席いたします」などの場合は、自分側の行為について残念な結果となって申し訳ないと謝罪する場合であり、「わが国P-1哨戒機に火器レーダー照射したことに対し遺憾の意を表する」「お返事をいただけず遺憾に思う」などの場合は相手側の行為について、そのようなことをされては残念だということから抗議する意味合いが加わっている。遺憾という言葉は安易に使うのではなく、意味合いが相手に分



長期投資仲間通信「インベストライフ」

かるようにする配慮が必要であり、そうでなければ「残念」など別の言葉で表現していただきたいものだ。「遺憾」という言葉を安易に使うのは遺憾なことである・・・

旧乃木邸のマッカーサーが植樹したハナミズキ

南北戦争で活躍した軍人の一人にアーサー・マッカーサーがいる。彼が駐日アメリカ大使館付き駐在武官だった時に日露戦争が始まった(当時 49 歳)。そして、乃木希典が指揮した旅順攻囲線と奉天会戦を観戦する。乃木の沈着冷静な戦いぶりとその人柄(武士道精神)に接したアーサー・マッカーサーは軍人としての乃木を尊敬するようになる。息子のダグラス・マッカーサーには日頃から「将来は乃木大将のような軍人になれ」と諭していたという。

そして大東亜戦争後、GHQ 司令官として赴任したダグラス・マッカーサーは旧乃木邸を訪れ、アメリカハナミズキを邸内に植樹したのである。



割愛(かつあい)

使い方の難しい言葉である。かつての文化庁の「国語に関する世論調査」によると、「割愛」という言葉を、惜しいと思うものを手放すという本来の意味で使っていた人は 17.6%しかいなかった。65.1%の人が、不必要な物を切り捨てるという本来なかった意味で使っていたと報告されている(わからない他が 17.4%)。

「割愛」は元来は愛着の気持ちを断ち切るという意味の仏教用語で、それから惜しいと思いつつも省略したり捨てたりするという意味が生じたのである。

幻のノーベル賞(山際勝三郎)

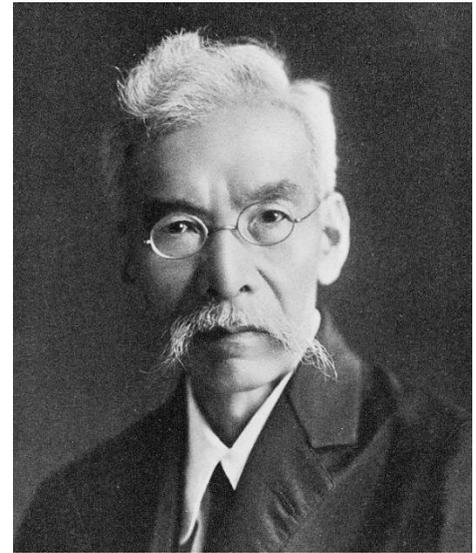
よく知られているように日本人初のノーベル賞は昭和 24 年(1949 年)の湯川秀樹博士だが、戦前にも受賞に相応しい研究者は少なからず存在していた。日本細菌学の父・北里柴三郎、ビタミンの発見者・鈴木梅太郎、細菌学の野口英世、腫瘍学の佐々木隆興、フェライトの父・武井武等々・・・なかでも人工癌の発見で知られる「山際勝三郎」はノーベル賞に最も近かった病理学者だ。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

山際は癌の発生原因が不明な時期にウサギの耳にコーラタールを塗擦し続けるという地道な研究を長年続け、人工癌の発生に成功したのである。彼は1925年、1926年、1928年と没後の1936年の4度もノーベル生理学・医学賞にノミネートされている。とくに1926年はデンマークのフィビゲルが寄生虫による人工癌発生に成功したと伝えられ、(山際の研究の方が癌研究の発展に資するという意見があったにもかかわらず)フィビゲルにノーベル賞が与えられた。しかし、後年フィビゲルの研究は癌でないことが判明したのである。

1966年、当時のノーベル委員会の委員であったヘンシェンは国際癌会議で来日した際「私はノーベル賞を山際博士に贈ることを提唱したものです。しかし、受賞に結びつけることができず日本の皆さんに申し訳ない」と述べている。



指切りげんまん

子どもの頃「指きりげんまん、嘘ついたら針千本の～ます」と約束を交わすときに使っていた言葉は誰もが知っているが、いったいどういう意味なのだろうか。

「指きり」は、その言葉通り「指を切る」という意味だ。これは遊女の言葉に由来しており、惚れた男のため、嘘いつわりない愛の証しとして「自分の小指を切って贈った」という意味がある。また、「げんまん」は、漢字で書くと「拳万」。拳で一万回殴るという意味だ。

「指を切る」とか、「一万回殴る」、「針千本飲ます」など、この約束ごとの裏には何やら怖ろしい意味が込められていたのである。